

* * *

学 会 記 事

* * *

§ 2005 年 (平成 17 年)

第 1 回日本核医学会理事会議事録

日 時：2005 年 (平成 17 年) 1 月 24 日 (月)
12 時 00 分～16 時 10 分

場 所：ルビーホール (12 階) 明星の間

出席者：

理事長：利波紀久

会 長：日下部きよ子

理 事：油野民雄，伊藤健吾，井上登美夫，
大鈴文孝，尾川浩一，久保敦司，
小泉 潔，阪原晴海，佐治英郎，
穴戸文男，竹田 寛，玉木長良，
中川原謙二，西村恒彦，福永仁夫，
本田憲業

監 事：中條政敬

幹事長：中嶋憲一

事務局：神田正子

欠席者：

宇野公一理事，米倉義晴監事，今枝孟義大会長

議題

I. 審議事項

1. 第 6 回春季合同セミナー大会長について
2. 第 14 回実践セミナー大会長について
3. 日本核医学技術学会との連携について
(小泉潔理事)
4. PET 核医学認定医制度の取扱いについて
(油野民雄理事)
5. PET/CT の使用に関するガイドライン作成
について
6. 標準用イメージング・プロトコールにつ
いて

7. その他

- ・「医学・薬学をめぐる経営に関するワー
キンググループ」
第 4 回ご意見を伺う会について

II. 報告事項

1. 第 44 回総会報告 (西村恒彦前会長)
2. 第 45 回総会準備状況報告
(日下部きよ子会長)
3. 第 46 回総会準備状況報告
(中條政敬次期会長)
4. 第 5 回春季合同セミナー準備状況報告
(今枝孟義大会長)
5. 第 13 回実践セミナー準備状況報告
(油野民雄理事)
6. 会計報告 (平成 16 年 9 月～平成 16 年 12 月)
(久保敦司理事)
7. 委員会報告
 - 1) 編集委員会 (玉木長良理事)
 - 2) 教育・専門医審査委員会
専門医認定制機構 (油野民雄理事)
 - 3) 健保委員会 (久保敦司理事)
 - 4) 広報委員会 (尾川浩一理事)
 - 5) 法人化対応委員会 (小泉潔理事)
 - 6) 標榜科推進委員会 (玉木長良理事)
 - 7) リスクマネジメント委員会
(竹田寛理事)
 - 8) 放射線防護委員会 (竹田寛理事)
 - 9) PET 核医学委員会 (伊藤健吾理事)
 - 10) 倫理検討委員会 (井上登美夫理事)
 - 11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成
委員会 (久保敦司理事)

8. ワーキンググループ (伊藤健吾理事)
9. 分科会活動
 - 1) 腫瘍・免疫核医学研究会(阪原晴海理事)
 - 2) 日本脳神経核医学研究会
(中川原譲二理事)
 - 3) 日本心臓核医学会 (大鈴文孝理事)
 - 4) 呼吸器核医学研究会 (井上登美夫理事)
10. 世界核医学会 (西村恒彦会長)
11. 米国核医学会 (玉木長良理事)
12. アジアオセアニア核医学会 (ARCCNM 兼務)
(阪原晴海理事)
13. 日韓中核医学会 (小泉潔理事)
14. その他
 - ・会員名簿調査票について (小泉潔理事)

III. 確認事項

1. 前回議事録(案)

議題

I. 審議事項

1. 第6回春季合同セミナー大会長について
2006年(H18年): 防衛医大, 小須田茂先生を推薦したいとの提案がありました承された。
2. 第14回実践セミナー大会長について引き続き審議する。
3. 日本核医学技術学会との連携について
(小泉潔理事)

総会の合同開催について, 日本核医学技術学会と日本核医学会の担当で会合をもった。2008年(H20年)に合同開催の方向で考え検討を継続する。核医学専門技師の認定については, 関連する規約作成やポイントの調整を行う予定である。

4. PET 核医学認定医制度の取扱いについて
(資料) (油野民雄理事)

PET 核医学認定医制度は学会が主導で行うことを明記した。また, この認定医制度は院内サイクロトロンの場合にのみ適応されるのではなく, 市販供給された場合も対

象になると理解している。PET 認定医の必要条件としては, 核医学会会員であることと核医学診療経験3年を有することが基準となるが, これは法的規制力はなく学会の基本的考え方を示すものとなる。

また, 現状では核医学専門医であってもPET 認定医をとる必要があるものと考えられるが, 将来的には核医学専門医がPET 診療に携わるという考えを出す。

なお, PET 認定医制度については, 評議員会総会で正規の承認を得ていないため, 春季合同セミナーの際に臨時評議員会総会を開催し承認を得る。

5. PET/CT の使用に関するガイドライン作成について(資料 後半)

伊藤健吾理事より資料に基づき, PET/CT 使用ガイドラインの制定に関する要望があったことが説明された。2006年(H18年)の診療報酬改定に組み込む可能性を考えて, それまでにガイドラインを作る方向で進めることになった。井上登美夫理事より, 核医学および放射線学会合同でガイドラインを作る合同委員会を作りたいとの提案あり, 井上理事を中心に進めることになった。

6. 核医学検査標準イメージング・プロトコールについて

イメージング・プロトコール改訂については核医学会主導で作成するのが望ましいと考える。また, 放射性医薬品臨床評価ガイドラインにおいても, 現在のところ被曝線量をどう考えるかについての統一の見方がない。これらの点を含めて宍戸文男理事を中心に検討を進める。

7. その他
—「医学・薬学をめぐる経営に関するワーキンググループ」第4回ご意見を伺う会について(資料)

利波紀久理事長より資料 に基づき説明がなされた。久保敦司, 日下部きよ子, 本田憲業, 井上登美夫各理事に同会に出席いただき検討する。

—SNMでのブース取り扱いについて

玉木長良理事より説明がなされた。SNMに学会ブースをおくと担当が必要となるが、アイソトープ協会からも出すとの意向があるため合同で出すのはいかがかとの提案があり、了承された。

II. 報告事項

1. 第44回総会報告 (西村恒彦前会長)

昨年の核医学会総会についての報告があった。若年研究者賞(YIA)の問題点として、費用や発表者等の問題を含めてなんらかの対策が必要であることが指摘された。

2. 第45回総会準備状況報告(資料)

(日下部きよ子会長)

資料 により次回総会開催の概要が紹介された。2005年(H17年)11月11-13日に開催される予定であり、募集要項、総会の内容などについて説明があった。

3. 第46回総会準備状況報告

(中條政敬次期会長)

2006年(H18年)11月9-11日に、鹿児島県民ホールを会場に予定されている。

4. 第5回春季合同セミナー準備状況報告

PETセミナーの申し込みは多いが、現状では初心者および専門医セミナーの受講申し込みはまだ少ないとの説明があった。核医学会会員でない場合でも受講可能である。

5. 第13回実践セミナー準備状況報告

(油野民雄理事)

5月14日に予定されているとの報告があった。

6. 会計報告(平成16年9月~平成16年12月)

(資料) (久保敦司理事)

資料 の収支計算書に基づき説明があった。

7. 委員会報告

1) 編集委員会(資料) (玉木長良理事)

ANM誌への投稿状況やANM創刊20周年企画を考えていることが説明された。電子化についてはクァンタムに依頼し検討を

進めているが、英文誌としての citation 増加に対応できる将来性も含めて検討することになった。

2) 教育・専門医審査委員会(資料)

(油野民雄理事)

専門医教育機関の認定基準として、(1)専門医の常駐、(2)年間検査1000件以上、(3)検査に偏りが無いことという条件を再確認した。2005年からの、審査の有料化と認定期間を2年から3年に延長することを承認した。

専門医認定制機構の動向に関連しても報告がなされたが、日本核医学会が属する「多領域に横断的に関連する学会」については、各学会の意向を尊重するとの見方であった。また、専門医制度に関連して調査票を提出した。

3) 健保委員会 (久保敦司理事)

本田憲業理事、日下部きよ子会長より説明があった。現状では内用療法の管理料は保険適応となっているが、内用治療料としての請求が可能になるよう働きかけが必要である。内用療法のほか、PET検査料の増点、適応拡大(食道、婦人科系のがん)、PET/CT等について優先して要求を厚労省にあげるようにする。

4) 広報委員会(資料 , 追加資料1頁)

(尾川浩一理事)

Webの利用統計について説明がなされた。現状では、1日5000件のリクエストがあり、1日300MByte程度のデータが転送されている。

IHE-J(Integrating the Healthcare Enterprise-Japan)懇談会の報告と活動状況が、追加資料に基づいてなされた。

症例データベースは約200例、300論文が集まり、配布できるように準備を進めている。

会員管理システムについても打ち合わせを行っている。

5) 法人化対応委員会(資料)

(小泉潔理事)

社団法人化について議論が行われてきたが、有限責任中間法人あるいは特定非営利活動(NPO)法人のいずれかを目指すのがよいのではないかと説明があった。会員資格(正、一般)、理事の任期、将来の法人変更など、それぞれの必要条件や特徴を今後も協議するが、有限責任中間法人化の方向で検討することになり、5月までに原案を作る予定である。

6) 標榜科推進委員会 (玉木長良理事)

前項に関連して法人化により専門医を広告できるので共に行動する。

7) リスクマネジメント委員会

(竹田寛理事)

誤投与アンケートを公表する予定で次回理事会に原案を示す。

8) 放射線防護委員会 (竹田寛理事)

PET/CTの被曝実測を考えている。

9) PET核医学委員会(資料)

(伊藤健吾理事)

臨時PET研修セミナー(2005/1/8-9)が開催され、その会計報告があった。

2003年(H15年)5月と2004年(H16年)4月のPET研修セミナーについてはテキストを送付し、レポート提出により再認定を行う。

FDG-PET検査安全確保ガイドライン(井上班)はほぼ完成している。関連する院内製造FDGのガイドラインとPET検診ガイドライン等を含めて冊子化することも考えているが検討事項とし、5月までに決定する。

PET検査件数アンケート調査の報告があり、Radioisotopes誌に公表することが了承された。

藤井博史氏に替わり窪田和雄氏(国立国際医療センター)に委員会に入っていただくことを承認した。

10) 倫理検討委員会(資料)

(井上登美夫理事)

RDRC(radioactive drug research committee)のシステムの調査、および個人情報保護法に関連して核医学臨床研究、診療の問題点を検討する。

11) 放射性医薬品臨床評価ガイドライン作成委員会 (久保敦司理事)

厚労省へ再提出後2月中に返事が出る予定である。

8. ワーキンググループ (伊藤健吾理事)

特になし

9. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会(阪原晴海理事)

総会時に施行された研究会の報告があった。RI内用療法のエビデンスを出すために作業を進めている。I-131内用療法ガイドライン小冊子が出された。

2) 日本脳神経核医学研究会

(中川原譲二理事)

関連学会と協力して活動を進めている状況が報告された。

3) 日本心臓核医学会 (大鈴文孝理事)

プログラムの一部に一般演題公募も含めて学会が開催されている。DPC対応、ガイドラインなどを含めて検討している。

4) 呼吸器核医学研究会 (井上登美夫理事)

今回は5月14日に高松市で、来年春は宇部市で開催予定である。

10. 世界核医学会 (西村恒彦会長)

日本核医学会でブースを作り宣伝を行った。

11. 米国核医学会 (玉木長良理事)

前述のとおりSNMにブースを出す予定である。動脈硬化のイメージングをテーマとしてJSNM-SNMジョイントセミナーを計画している。

12. アジアオセアニア核医学会(ARCCNM 兼務)

(阪原晴海理事)

特になし

13. 日韓中核医学会 (小泉潔理事)
特になし

14. その他
会員名簿調査票について(資料)
(小泉潔理事)

調査項目について説明があった。他の関連学会に電子メール等の個人情報を公開しないことになった。会員への伝達依頼があった場合はその回毎に判断し、核医学会が受け取り会員に通知する。

Molecular Imaging 研究会

佐治英郎理事より核医学会最終日に行われた molecular imaging 研究会の報告があり、核医学会としても協賛することを了承した。なお、本年の molecular imaging 研究会は 11 月の核医学会総会に合わせて開催予定である。

III. 確認事項

1. 前回議事録(案) (資料)
確認を行った。
2. 次回理事会
春季合同セミナー開催時の 5 月 27 日 12 時から予定する。

§ 2005 (平成 17) 年日本核医学会臨時評議員会

2005 (平成 17) 年 5 月 27 日 (金) 17:00-17:35
名古屋国際会議場 白鳥ホール
議長 日下部きよ子
評議員数：出席者 57 名，委任状 65 名，計 122 名
であり本評議員会は成立した。

議題

1. PET 認定医制度について(資料)
2. 臨時総会の緊急開催について
3. その他
・中間法人設立について(資料)

審議事項

1. PET 認定医制度について(資料)

利波紀久理事長より PET 認定医制度設立の必要性に関して経緯が説明された。次いで、油野民雄理事より PET 認定医制度の目的、資格、認証方法、更新等について資料に沿って説明がなされた。専門医が PET 認定医と異なる点として、(1) 学会の中間法人化後は広告可能となること、(2) 診療報酬上 87 点の文書加算が可能であること、(3) 教育機関の施設認定が可能であること、(4) 更新費用と手続き上の利点を有すること、等が示された。

質疑応答の中では、核医学専門医は PET 認定の上位に位置づける立場であることが確認された。技師の研修については技術学会が施行することも可能ではあるが、今後とも技術学会との協力のもとに進める。また、PET 技術はライフサイエンス全体を含めた発展の可能性がある、それを含めた仕組みが必要との意見が出されたが、本認定医制度が健全な PET 診療や安全管理を進める目的もあることから、現在核医学会が中心になって進めているとの説明がなされた。

以上の審議の結果、賛成全会一致で承認された。

2. 臨時総会の緊急開催について
臨時総会の緊急開催が全会一致で承認された。
3. その他
・中間法人設立について(資料)

小泉潔理事より資料の有限責任中間法人定款案に沿って、設立に至る経緯について説明があった。6 月の核医学会誌に本案を掲載して意見募集を行い、二次案を作成する。最終案は 11 月の核医学会総会時に提出される予定である。

§ 2005 (平成 17) 年日本核医学会臨時総会

2005 (平成 17) 年 5 月 27 日 (金) 17:40-17:55

名古屋国際会議場 白鳥ホール

議長 日下部きよ子

出席者 61 名, 委任状 843 名, 計 904 名であり
本臨時総会は成立した。

議題

1. PET 認定医制度について (資料)
2. その他
 - ・ 中間法人設立について (資料)

審議事項

1. PET 認定医制度について (資料)

利波紀久理事長より PET 認定医制度設立の必要性に関して経緯が説明され, 引き続いて油野民雄理事より PET 認定医制度の目的と認証

方法について資料に沿って説明がなされた。

質疑応答の中では, 核医学経験 3 年以上の判定手続きをどのようにするのかとの質問が出されたが, 厚生労働省の見解では本制度が日本核医学会単独の扱いになっていないために核医学の診断経験を 3 年としたこと, さらに PET 診療に関して核医学会がリーダーシップをとって進めるという考え方が示された。また, 現状の核医学認定医からの移行に関する質問については平成 8 年までに更新時に専門医への移行手続きをとっていることが再確認された。

以上の審議の結果, 賛成全会一致で承認された。

2. その他
 - ・ 中間法人設立について (資料)

小泉潔理事より資料の有限責任中間法人定款案に沿って, 設立に至る経緯と会告案の説明および今後の予定について説明があった。